

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏消費者物価(22年6月) —前年比伸び率はさらに拡大し、8.6%に

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:8.6%でまたも最も高い伸び率を更新

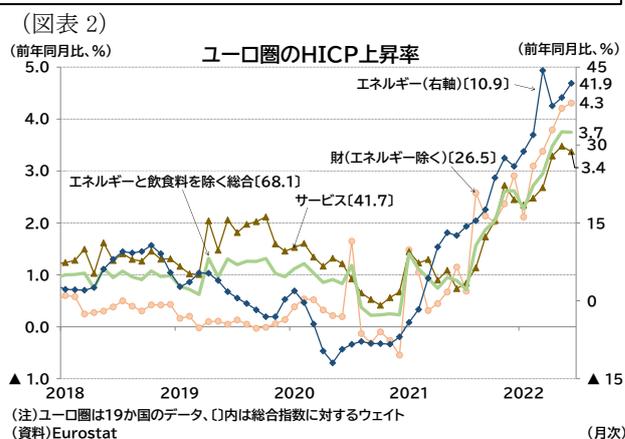
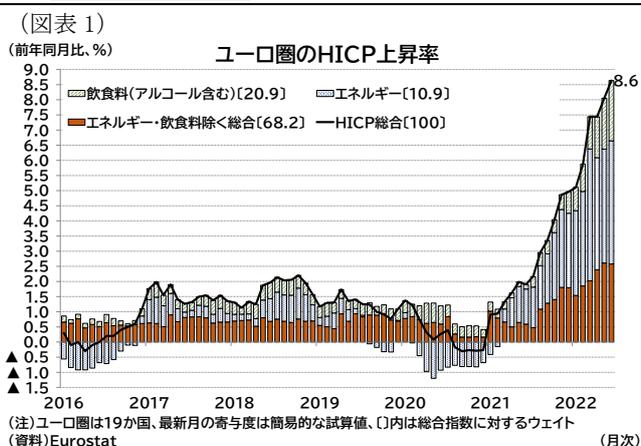
7月1日、欧州委員会統計局(Eurostat)は6月のユーロ圏のHICP(Harmonized Indices of Consumer Prices:EU基準の消費者物価指数)速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数】

- ・前年同月比は8.6%、市場予想¹(8.5%)を上回り、前月(8.1%)から加速(図表1)
- ・前月比は0.8%、予想(0.7%)を上回り、前月(0.8%)からは横ばい

【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は3.7%、予想(3.9%)を下回ったが、前月(3.8%)からは減速(図表2)
- ・前月比は0.2%、前月(0.5%)から減速した



2. 結果の詳細:コアは減速したが、エネルギーと飲食料が大幅に加速

22年6月のHICP上昇率(前年同月比)は全体で8.6%となり、5月の8.1%からさらに大幅に加速し、統計データ公表以来の最も高い伸び率を更新した。一方、「コア部分(=エネルギーと飲食料を除く総合)」も3.7%と5月(3.8%)からやや減速している。

以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料(アルコール含む)」の3つに分けて見ていく。

まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

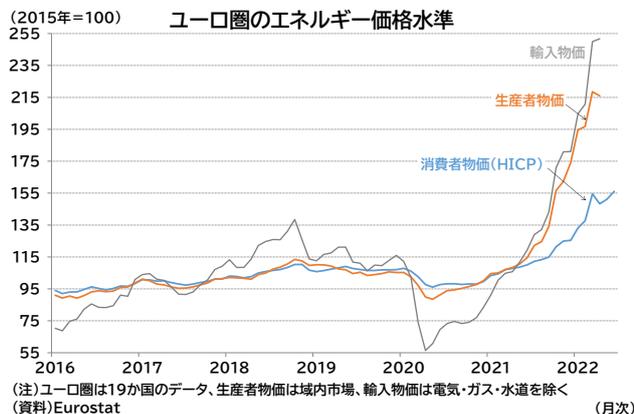
² 日本の消費者物価指数のコアコアCPI、米国の消費者物価指数のコアCPIに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアコアCPIや米国のコアCPIとは若干定義が異なる。

（飲食料も除く）」が4月3.8%→5月4.2%→6月4.3%とやや加速する一方、「サービス」（エネルギーを除く）は4月3.3%→5月3.5%→6月3.4%とやや減速した。ウエイトが大きいサービスの減速のためにコア部分も減速した形となったが、サービスも3%超という高い伸び率が続いている（図表3）。

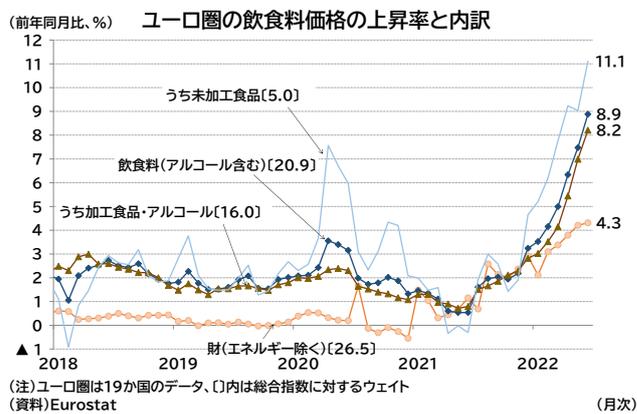
品目別には5月までのデータとなるが、娯楽業が3月3.1%→4月3.6%→5月3.6%、外食・宿泊業が3月5.1%→4月5.9%→5月7.1%と対面サービス産業の伸び率が高めで推移している。5月は特に飲食・宿泊業の加速が目立つ。また、光熱費（4月15.9%→5月16.3%）や輸送（4月13.0%→5月14.0%）がエネルギー価格高騰の影響で2桁の伸び率が続いているほか、家具も3月4.2%→4月5.0%→5月5.9%と5月は加速が顕著になっている。

コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で4月37.5%→5月39.2%→6月41.9%と加速を続け、3月（44.3%）以来の40%超の上昇率を記録した。6月は前月比でも3.3%（5月は1.9%）と加速し、水準は3月のピークを超えた（図表3）。前年同期比の寄与度では4.06%ポイント程度（5月は3.87%ポイント）となっている（前掲図表1）。

（図表3）

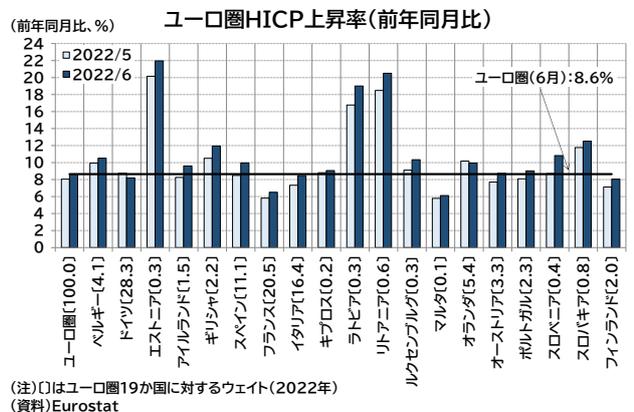


（図表4）

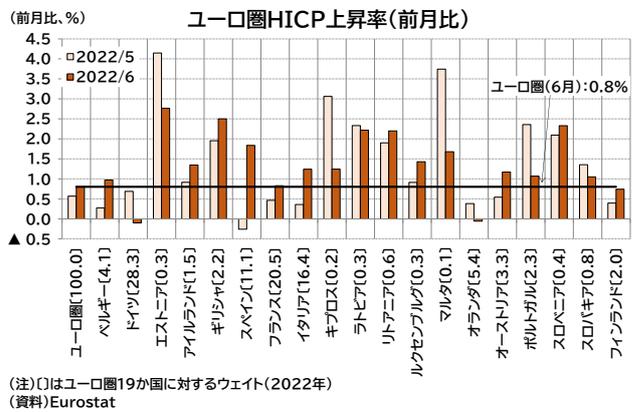


「飲食料（アルコール含む）」は、前年同月比で8.9%（5月7.5%）となった。飲食料のうち加工食品の伸び率は8.2%（5月7.5%）、未加工食品は11.1%（5月9.0%）であり、いずれも高い伸び率だが、特に未加工食品の伸び率が10%超の高さとなっている（図表4）。飲食料の前年同期比寄与度は1.99%ポイント程度（5月は1.59%ポイント）まで拡大している。

（図表5）



（図表6）



国別のHICP上昇率では、5月は前年同月比で19か国中17か国が加速、9か国が2桁の伸び率を記録した（図表5）。また、前月比では19か国中17か国がプラスの伸び率となった（図表6）。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。